



発行所  
飯田市竜丘公民館  
編集人  
竜丘公民館広報委員会  
印刷所  
龍共印刷株式会社  
上郷町黒田 22-5353

人口 6,048 人  
男子 2,886 人  
女子 3,162 人  
世帯数 1,661 戸  
(2月末日現在)

# 皆でつくる明日の竜丘

## 地域づくりはあなたが主役

### 課題Ⅰ 暴力団の進入を阻止しよう

竜丘地区は、地域開発と人口が増加する中で住みよい生活環境づくりを進めていますが、最近飯田市において目にあまる暴力団の進出と事件発生をみる中でここに各関係団体、住民、行政、警察が協力し、暴力団追放運動を推進する。

◎具体的取組み  
①各部落、常会・組合、各種団体等の会合の機会に暴力団を追放するように話し合う。  
②困った事は隣組で相談し、かわりが生じそうなきは、直ちに警察・区長・支所に通報する。  
③家庭、地域、学校からいかなる「いじめ」や非行

### 課題Ⅱ 改めて防火・無火災を進めよう

竜丘地区は、一、二六七日目で連続無火災記録がストップして以来、一転して火災多発地区となっていました。再び無火災地区となるよう消防団を始めとした地域ぐるみで無火災運動を進めましょう。

◎具体的取組み  
①家族全員で「火の用心」について話し合い、防火意識を高めよう。  
②婦人防火クラブの結成で、防火啓蒙運動を高めよう。  
③高齢者、身体不自由者の防火対策を考えよう。  
④消火器の設置と取扱いの知識を高めよう。

### 課題Ⅲ 地域開発課題を前向きに協力し発展させよう

竜丘地区が、桐林クリーンセンター受入れや、天竜川沿岸治水対策の具体化に伴い、関連する地域課題が進められるに当たり、地元や地域で要望される諸条件整備が円滑に推進されるよう協力し合い、安全で快適な活力に満ちた地域づくりを進めましょう。

### 去る二月二十四日と三月十一日の二日竜丘フォーラムの一分科会として、「古墳を考える会」の準備会が行なわれ、先の新春放談会で決議された三つの課題の一つについて、取り組んで行くことになりました。

### 発の途があると思えます。今後、地域内の古墳保存に関心があり、具体的に行動を行ってくださる方などに呼びかけ、「古墳を考える会」を発足させ、方向を模索して行くとして、古墳を具体的な行動として、古墳

### 地域の貴重な財産古墳を発展的に利用できるよう、地域の皆さんの御理解を御願います。

## 古墳を生かして

## 地域づくり

指定の御嶽堂・馬背塚・市指定の二子塚などの古墳は中に数十人が入れる石室を持つものであります。これからの竜丘の発展を考える時、この近在有数の古墳を保存し、塚原を中心とした地域を公園とする構想など古墳を生かした地域開

調査・所有者へのアンケートを行い、学習を行い、発展的の事業として、地域内各所に現存する各古墳の案内板の設置、古墳めぐりの案内板の設置まで行なえるような活動となるようにしたいとしています。



今に残す古代の遺産

地域の貴重な財産古墳を発展的に利用できるよう、地域の皆さんの御理解を御願います。



地域ぐるみで取り組もう

◎具体的取組み  
①桐林クリーンセンターが、万全な公害対策を備えた施設として建設される。  
②天竜川恒久治水対策が再び水害のない、高度な土地利用が進められる。  
③墓地公園隣接に適切な多目的運動場と施設が確保される。  
④基地公園隣接に適切な多目的運動場と施設が確保される。  
⑤土地、家賃を貸さない。などを具体的取組みとして、暴力追放三不運動を推進する。○暴力団を恐れぬ。○暴力団を利用しない。○暴力団に金を出さない。

## 力自慢勢揃い 総合優勝 長野原

二月八日(日曜日)、分館対抗綱引き大会が行なわれ、会場の竜丘小学校体育館では、選手と応援団二百五十余名の掛け声大合唱の中、熱戦が繰り広げられました。「綱引き」といえば、「運動会の常連種目」だが、選手八人合計体重が五百六十キロ(女子は四百二十キロ)から始まり、年齢・服装から事細かな競技規則がありびくつきです。勝敗は三本、自分の陣地へ四メートル引張り込み、二本先取した方が勝者に。男子四十才以上・未満・女子と三ブロックに分かれ、結果は・・・(左記)特に男子四十才以上は、長野原が圧倒的な強さを見せた。勝利戦法は……始め相手の引きにじっと耐え、相手が一息つくと同時に一気に全パワーで引き込む。その戦法とチームワークで、最

後四十才未満優勝の時又にもあつという間の二本ストリート勝ちと、おとうさんたちの底力を見せてくれました。女子は、三本目に持ち越す長期戦が目立ち、得失セット数同率により時又と長野原の決定戦を行い、「イチ・ニ・イ・チ・ニ・イ・チ・ニ・イ」と独特な掛け声の時又が優勝になりました。総合優勝した長野原分館は、三月十五日(日曜日)に行われた「Gプロック」体育大会に出場し、大熱戦の末、三位となり



「熟年パワー」爆発!!

## グループ紹介

歩行運動を始め、た頃は、「歩いてなんかない、どうしたの?」と不思議がられ、この頃は「いいなあー歩いて!」の音が聞かれるようになりました。

三年前、さわやか体験クリニックで歩くことの意義を学習し、日頃運動不足を感じていた私には、その必要性が十分あり、効果を期待して、とにかく一日三十分歩くことにした。六ヶ月後の検診では、心電図に運動の効果ははっきりと示され、腰痛もなく、待望の減量も叶えられ、すばらしい成果が得られました。

最近歩くことを見直そうという機運が大きくなってきていますが、昨春秋、歩け歩け世界大会が埼玉で開催され、その光景をまのあたりにしました。



歩く時がさわやかタイム

## 歩く事を 見直そう

### 《さわやか会》

が開催されます。それに向けて、さわやか会では各部落毎、遠出を試み始めました。野山の自然と親しみ、ふれあう中で、その豊かさを実感しつつ、仲間と語り歩くことは、まさに心身ともに健康づくりそのものになります。

今年から採り入れられた綱引き大会ですが、大変評判もよく、公民館の掲げる「誰でも参加できるスポーツ」として、毎年続けて行っ

## マイペースで健康づくり

去る二月四日、「健康づくりのための運動」と題して、健康講演会が、長野県伊那総合健康センター所長、宇治正美先生を講師に竜丘公民館で開催された。

講演では、現代の車社会に象徴される慢性的な運動不足。この運動不足が健康に及ぼす影響、また健康な体を維持するためにはどんな運動(歩く事)をすれば良いのかお話しがあった。また、二月下旬から三月上旬にかけて、各分館ごと「運動による健康づくり」をテーマに、体育指導員、長坂敏子先生を講師に、ストレッチ体操の実技を中心とした、健康セミナーが行

なわれた。ストレッチ体操のポイントは無理をせずゆっくりと、十分に、自然な呼吸で行うことだそうである。

二つの健康に関する研修に参加して学んだ事は、最近の病気がストレスによるものも多くあり、このストレスの発散のためにも、動く事は非常に大切な事である。また、動く事により脈拍が上がり、肺や心臓の能力が向上するのさそうである。歩く事にしろ、ストレッチにしろ、また他のスポーツにより効果が出て来るので、自分のペースで無理をせず続けて行きましょう。

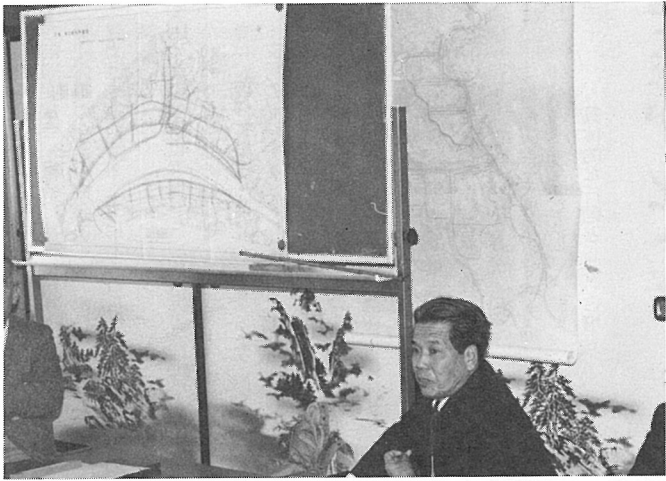
◇春の訪れと共に長年の懸案であったゴミ焼却場と天竜川治水対策がスタートした。ゴミ焼却場については、今の所熱利用が考えられ、治水対策の土取り場跡地利用とからめ、クワハウスの健康センター、飯田下伊那南部の総合病院や温水プール、体育施設等が掲げられている。又、施設園芸、果樹等農業に利用したり、余熱を利用しての動植物園等も地域の観光と合わせて考えてみてもおもしろいのではないだろうか。治水対策については広大な埋立て地、土取り場跡地の利用が考えられ、今の所は工場の誘致等が掲げられている。しかし、円高不況の現在、仲々進出して来る企業も見あたらぬ現状ではないだろうか。まだまだ先の長い事業ではあるが、土地利用の前に埋立てる事による時又地区への影響(新川への増水等)も解決しておかなければならない等、課題の多い事業である。いづれにしても、両事業共今後の竜丘を始め周辺地域、飯田市等に大きな影響を与える事業だけに、一部役員や、市の段階だけでなく、広く一般市民各層の参加を得、二つの事業からなるメリット、土地利用等、多くの夢を語り意見を集約し早期実現を図っていただきたいものである。

◇最近竜丘地区で火災が多発しています。ついさつかりや、自分の家は大丈夫と安心してはいませんか。今一度家族で話し合い防火の意識を高めましょう。

◇六十一年度最後の館報をお届けしましたが、最近館報のマンネリ化の声も聞かれます。広報委員会では、地区の皆様方の意見、要望を参考に、より一層の内容充実を図っていきたいと思っております。御意見、御感想等ございましたら是非公民館の方へお寄せ下さい。

# 水害のない竜丘へ

## —治水対策と桐林上段開発—



示されたマスタープラン原案

川路、龍江、竜丘地区を対象にした天竜川恒久治水対策は、総額二百億円を超える大規模事業である。この事業は、泰阜ダムの影響を完全に排除するため、三六五と五八八規模の洪水を安全に流下させ得ることを目的として、最高6メートルの地上げをして整地するものである。

竜丘地区では、時又・上川路区域の一部、約二十九ヘクタールである。この土取り場が、桐林上段の、びるだ地籍に決定している。この区域は、桐林クリンセンター、待望久しい多目的運動場、工業団地造成等として、埋め立て地の有効利用等と、地域の活性化が図られる拠点として、地区民の期待が集まっている。

- ◇ 天竜川治水対策事業による土取場、ごみ焼却場建設
- ◇ 設等桐林上段を中心とした一連の開発構想が、いよいよ本格化する。この地域開発が具体的に進む
- ◇ ことにより地区の活性化、地域課題の促進や要望事項の実現により、活力に満ちた竜丘地区の発展が大きく期待される。

### 私の提言

私は、竜丘に移り住んで間もないが、常識ある見解あるいは、適切な要望を述べることが出来るか、疑問ですが、浅いなりに感ずるところを述べてみたいと思います。

街の変貌が先行することは目に見えています。昔から、この地域に暮らしているお年寄りから子供、孫へ、また外部から定住してくる者との和を持つことにより、竜丘の人づくり、街づくりが始まります。街の変貌には人口の増加が起ります。

また、竜丘は文化の宝庫でもあると思います。埋もれたものの掘り起こしと伝承、その活用による観光面、商店街の活性化を図らなければなりません。せっかく住環境ばかりよくても、人間生活としては、満足行くものでもありません。やは

## フレキシブルな竜丘をつくらう

時又 福沢克巳



まず、駄科から上川路までの、各地区を見廻すと、住環境には、すばらしい地域であることが確信しております。全的に見ても同様でしょう。従って、当住民は、この地域の五年先、十年先の変貌に目を向けることにより、今現在、自分がなすべき立場を見出すことができると思

今のようにその基礎を定着させ、将来の対応を図れる様にしておかなければいけないと思います。すばらしい環境なのにこれから発展するということは、過去に問題を残していたのではないのでしょうか。

り、時代、時代には、思い切りも必要な場面も出て来ます。他力本願、事なかれ、成り行き主義は捨て、行動の時ではないでしょうか。灯ろう流し等の年間行事でも、マンネル化が目立ち、竜丘全体の住民によるイベ

## 防火の大役 婦人も主役

火事を発見したら、まず何をしたらいいか、ご存じですか？

① 火を消す  
② 一九番へ連絡  
③ 火事だ！火事だ！と

火事を発見したら、まず何をしたらいいか、ご存じですか？

これは三月の半ばに各地で開かれた「防火の集い」で指導していただいた事項であります。

ともあれ、火事を出さない事が一番。竜丘も、かつて連続無火災一二年七七日と記録をストップして以来、残念ながら七件の火災が発生しています。そんな中、改めて無火災運動を地区、家庭ぐるみで展開しようという竜丘婦人防火クラブが結成されました。家庭の防火となれば、日常火気設備等を取り扱う機会が多い婦人の役割は、非常に大きいものです。このクラブは、竜丘に在住する婦人に広く呼びかけられ、各自自治会ごとに組織されています。クラブ員は、火災予防の知識を習得し、火気を安全に使用できるようにすると共に、地域における防火のリーダーとして安全な地域づくりを目標として、これから活動を開始します。

## 今、ボランティアの時

ボランティア活動は、社会的弱者、障害者、老人、病人等）が抱えている福祉課題を解決する為に、又地域社会が抱えている問題を解決する為に、進んで仲間と問題に関わり、協同し重荷を分かち合う事だと言われ、竜丘地区でも、昨年ボランティアの会が結成され活動を進めています。

今回ボランティア活動への理解を深め、意識の高揚を図る為、二月三日から五日に渡りボランティア講座が開かれ、延べ百五十人余の方が参加され、ボランティア活動とは何かから始まり、飯田福祉事務所の横田所長より高年令化が叫ばれ、問題となっている飯田の福祉の現状と展望や、社会福祉事務所の原課長さんより、将来の暮らしを保障する年金制度について行政側からの講演があり、特に一本化が図られている年金制度には多くの質問が出され、関心の高さがうかがわれ、共に、参加者からも年金制



3.24 防災の集い(桐林区民センター)

## 甘酒かこんで

四百年以上の歴史があるといわれる「甘酒祭り」が駄科文化祭と合わせ、去る二月七、八日に駄科公民館(駄科諏訪大社)で行なわれました。

かつて駄科諏訪大社の春祭りに行なわれていた甘酒

祭りは、昭和三十年以降保健康衛生上から地区民にふるまわれる事は無くなっていました。昨年の文化祭の中で訪れた人達に甘酒を出した所、大変好評で、今年は正式に復活を計画して「有料で販売しなければ」という保健所の回答を得て三十二年ぶりの甘酒祭りの復活となりました。

二日間に約四百人程が会場を訪れ、三斗五升の米で作った甘酒は一日半でみごとカラッポになりました。

その他、各種クラブの発表や展示、郷土史同好会の研究報告など文化祭としても大きな盛り上がりを見せました。

南信各地にある諏訪大社の中でも御柱が無い事で珍しい駄科諏訪大社の甘酒祭りは地域の人達によって掘り起こされ、あの忘れかけていた懐かしい味と甘い香りで、とくせわしなくてぎすぎすしかけた地域の人達の心を和やかなものへと変えてゆこうとしています。

## 随想リレー

(一) 今何故自由画か

昨年十一月十四日から十八日迄、飯田創造館で木下紫水自由画教育回展と座談会が開催され、竜丘小学校生徒の作品が展示された。

飯田市有線放送は一月から二月まで三十回にわたって、木下紫水を語る特別番組を放送した。

今何故、大正期の自由画教育と紫水が研究され取上げられるのであろうか？この誌面では極く概要だけしか書けないが記したい。

(二) 木下紫水と自由画

大正期の小学校図画教育は、まず「臨画」お手本を写す事であった。「国定教科書図画教程」は文部省制定であった。鉛筆画であった。

紫水はそのお手本教育を採らず生徒自身が自然を写生する事に依って創造力、直観力を育て美に対する目と心を養う芸術教育をとり上げたが、それが自由画教育であった。

北信では、欧州から帰朝した山本鼎が小県で自由画教育を提唱し、その主張に共鳴した紫水は大正八年九月第二回日本自由画展を竜丘小学校で開催した。第三



当時の児童の作品

回は東京、第四回は京都あとも全国に向かってこの運動が展開されたのであった。

山深い信州で新しい芸術教育運動が始められたのも

岩波映画はテレビ、ビジュアルクレー三十分番組で「教科書追放」という題で山本鼎主体だが、竜丘の自由画教育を全国に放送したのは昨年であった。

紫水は明治十五年三月十八日駄科木下喜三治の長男として生まれ、昭和二十六年四月七十一才で死去した。松本中学飯田支校中退、東京美術学校予科も家庭の反対で中退、長野師範講習科で図工専科教員の資格を得て、教育生活の殆どを竜丘で終った。

退職後村会議員、民生委員、学務委員、遺族会長の他、婦人らの講師として郡下沈み歩き、生涯を社会福祉の為に送った。